



♪ ドは読書のド ♪

校長 山崎 泰央

今年も「全国子ども読書週間（4月23日～5月12日）」が始まります。ポスターには、「ドレミの歌」の歌詞を「読書」に置き換え、「♪ ドは読書のド ♪」という言葉が添えられています。「ドーナツなどの食べ物は体の栄養になるが、読書は心の栄養になる。」と呼び掛けているように感じました。

さて、本校は開校以来読書活動にとっても力を入れてきており、子どもたちもよく本を読みます。子ども一人当たりの貸出冊数の平均が年々増え、ここ4年間は120冊（昨年度は過去最高の127.1冊）を超えています。本年度も、「子どもたちが様々な本に触れ、興味を持った本を進んで読んで欲しい」「全校一斉に朝読書に取り組むことで、心を落ち着かせて学習に向かう姿勢を整えたい」という思いで、朝の10分間読書に取り組んでいます。私も、本の世界に浸る子どもたちに出会うため、本を片手に持ちながら各教室を回っています。また、全学年が学校図書館を利用した学習にも積極的に取り組んでいて、子どもたちにとって図書館は身近な存在となっています。しかし、進んで本を読む子とそうでない子が二極化しているという課題もあります。そこで、今年度、図書館教育の新たな工夫として「読書通帳」の取組が始まりました。3年生以上の子どもが自分の「読書通帳」を持ち、一冊本を読み切ったら日付と書名を書いて読書貯金をしていくというものです。「連休の時に読んだ『〇〇の冒険』は楽しかったなあ。」「夏休みに読んだ『〇〇』はわくわくしたなあ。」など、自分の読書の足跡を振り返ることで充実感を味わうことができるとともに、一冊の本を最後まで読み切る力の育成にもつながると考えます。



朝の10分間読書の様子

読書をすると、実際にはできない体験をすることができたり、いろいろな時代や場所に行けたりします。また、その時代時代に生きた人々の思いや生き方に触れ、あこがれを持つこともあります。先日読んだ丹羽宇一郎氏の著書『死ぬほど読書』にも、次のように書かれていました。「読書の楽しみを知っている人にはわかります。本を読むことがどれだけ多くのものを与えてくれるかを。考える力、想像する力、感じる力、無尽蔵の知識や知恵・・・、読書はその人の知的好奇心、そして『生きていく力』を培ってくれます。読書を多く重ねてきた人は、それだけたくさんの著者と出会って、その人たちの声を頭のなかで響かせているのです。」と。

私は、子どもの頃それほど読書をしたわけではありません。しかし、盲腸で入院していたときに担任の先生が届けてくださった『赤毛のアン』『子鹿物語』の世界は、大切な世界として今でも心の中にしまっており、学生時代から少しずつ読書の時間が増え、今では「読書は自分の生き方の羅針盤」と思えるくらい大切な趣味の一つとなりました。様々な人の生き方を通して自分を磨いたり、いろいろな本との出会いが生活や心を豊かにしてくれたりしています。子どもたちにもこの至福の時間を味わわせたいと思い、これからも本の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

まもなく10連休です。親子読書など本に親しむチャンスです。ご家庭や地域でいろいろと楽しい活動が計画されていると思いますが、安全で有意義な休みになりますようよろしくお願いします。